Osaka University Knowledge Archive

Title	デンマーク主要家具ブランドにおける製品ラインナップの変化について
Author(s)	多田羅, 景太
Citation	デザイン理論. 2024, 84, p. 86-87
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97669
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

デンマーク主要家具ブランドにおける製品ラインナップの変化について

多田羅　景太　京都工芸繊維大学

デンマーク家具デザインの概説

デンマーク家具のデザインの特徴として，シンプルで飽きがこない，モダンなデザイン，ナチュラルな素材感，機能的かつ実用的，繊細なクラフトマンシップといった点が挙げられることが多い。これらに加え，時代を超えて現在でも高く評価され続けている作品が 1940 年代から 60 年代にかけての約 30 年間（本発表では黄金期と呼ぶ）に集中して発表されたことも，デンマーク家具デザインの大きな特徴といえよう。

また，デンマーク家具デザインの黄金期に数多くの名作が誕生した背景として，4 つの要因を挙げることができる。これらの要因については別稿で既に論じているため本発表での詳述は控える。

デンマーク家具メーカーについて（家具工房とファニチャーファクトリー）

デンマークの家具メーカーは職人による伝統的なクラフトマンシップを前提とした家具工房と機械による大量生産を前提としたファニチャーファクトリーに大別することができる。家具工房では徒弟制度による技術の継承に重点が置かれたが，家具職人組合における材料の買い付けや帳簿の付け方などの教育により，高い木工技術と工房経営の知識を持つ若い職人を効率的に育成してきた。

黄金期に生み出されたデンマークの家具デザインは国際的にも高い評価を受けたが，70 年代に入ると衰退期を迎えるようになる。黄金期に国内外から殺到した大量の注文に慢心して長期的な経営ビジョンを描けなかった家具工房の多くは衰退期に姿を消してしまった。一方で成型合板や硬質発泡ウレタンの成型など近代的な設備を導入して機械による量産体制を整えたファニチャーファクトリーは，効率的な生産によって 90 年代中頃まで続いた衰退期を切り抜けることができた。

2000 年以降のデンマーク家具産業

2000 年以降，雑誌やインターネットなど様々な媒体を通じて「北欧デザイン」というワードが広く紹介されるようになる。デンマークの家具デザインは「北欧デザイン」の中核を成す要素のひとつとして若い世代にも認知されていった。この現象は一時の流行では終わらず，現在ではインテリアデザインにおけるひとつのスタイルとして定着したといえよう。このような状況に対し，近年デンマークの家具ブランドは黄金期にデザインされた家具の復刻生産に注力している。

デンマーク主要家具ブランド 5 社における製品ラインナップ分析

本発表ではデンマークの主要家具ブランドであるフ 5 社を対象として 2014 年，2021 年，2023 年の製品ラインナップの構成に対する調査を行い，各社の特徴および方針を比較検証する。

1872 年創業のフリッツ・ハンセンは 1950 年代からアルネ・ヤコブセン（1902–71）と協力してアリンコチェアやエッグチェアを世に送り出した家具ブランドである。2014 年以降の傾向として，ヤコブセンとケアホルムが黄金期にデザインした家具を積極的に復刻していることが挙げられる。

また 2014 年から 2021 年にかけて，国際的に活躍している現役デザイナーを起用し，製品ラインナップの幅を広げていることも確認できた。

1911 年創業のフレデリシアファニチャーは，1955 年に創業者一族から家具工場を買収したアンドレアス・グラヴァーセンがボーエ・モーエンセン（1914–72）に家具デザインを依頼して以降，モーエンセンがデザインした家具を継続的に製造している家具ブランドである。2014 年以降の傾向として，モーエンセンが黄金期にデザインした家具を積極的に復刻していることが挙げられる。2021 年にはエリック・ヨーゲンセンを買収し，ハンス J. ウェグナー（1914–2007），ポール M. ヴォルター（1923–2001），アルネ・ヴォッダー（1926–2009）など黄金期に活躍したデザイナーによるモデルを追加している。また 2014 年から 2021 年にかけて，国際的に活躍している現役デザイナーを起用しているが，販売が不調なモデルは短期間で廃盤となっている。

1908 年創業のカール・ハンセン＆サンは CH24（Y チェア）などハンス J. ウェグナーによってデザインされた家具を 1950 年以降継続的に製造している家具ブランドである。2014 年以降の傾向として，ウェグナー，モーエンセン，ケアホルム，ヤコブセンらが黄金期にデザインした家具を積極的に復刻していることが挙げられる。また 2011 年にルッド・ラスムッセン工房を買収し，コーア・クリント，オーレ・ヴァンシャー（1903–85），モーエンス・コッホ（1898–1992）らによるモデルを追加した。現役デザイナーによるモデルも継続的に製造している。

1990 年創業のワンコレクションは，フィン・ユールの未亡人の依頼で 2001 年にユールが 1957 年にデザインしたソファーを復刻して以降，ユールとの関わりが非常に深い家具ブランドである。創業当初より製造の大半を外部委託しており，木製フレームの製造は山形県にある OEM 工場が製造している。2014 年以降の傾向として，ユールが黄金期にデザインした家具を戦略的に復刻しており，ユールの家具を製造する家具ブランドとしての地位を短期間で確立している。一方で，設立初期の経営を支えた現役デザイナーによるモデルは廃盤の傾向にある。

1953 年創業の PP モブラーは，もともと下請けの家具工房であったが，1969 年にウェグナーがデザインした椅子を発表し，1991 年にはヨハネス・ハンセンよりウェグナーがデザインした一連の家具シリーズの製造ライセンスを引き継いだことにより，ウェグナーとの関係がさらに深まった。NC 加工機など最先端の木工機械を活用しながらも，職人による伝統的なクラフトマンシップを維持し続けている家具工房である。

前述した 4 ブランドとは異なり 2014 年以降製品ラインナップの構成に大きな変化はなく，その大部分をウェグナーがデザインしたものが占める。ファニチャーファクトリーとは異なり比較的小規模な家具工房であるため黄金期にデザインされたモデルの復刻は限定的であることに加え，ウェグナーがデザインした家具であっても一部廃盤になっていることも注目に値しよう。工房の生産能力を無理に拡大することなく，製品のクオリティーを維持するためにラインナップを調整していると考えられる。

結び

デンマーク家具産業において近年積極的に復刻モデルが発表されている印象があったが，今回の調査・研究によりその傾向が明確になった。とりわけ黄金期に活躍した 8 名のデザイナーによって生み出されたモデルが占める割合は極めて高く，中でもハンス J. ウェグナーは突出していることが分かった。今後も継続的に調査を行いたい。